

第Ⅱ章 都市空間デザインの基本方針

1. 現状の特性 ----- 6
2. 関連諸計画のまとめ ----- 7
3. 都市空間デザインのテーマ ----- 8
4. 都市空間デザインの基本方針 ----- 9
5. 都市空間の基本構成と全体像 ----- 11

本地域全体の都市空間を考える上で、ポイントとなる現況特性を整理します。

(1) 都心とのつながり

- ・ 祇園橋を境に都心（城下町）と領域が区分されます。東側は白川、西側は花岡山、万日山で領域が区分されています。
- ・ 都心とは、白川・坪井川の水辺空間が連続し、祇園橋を經由して市電や路線バス等によりアクセスが確保されています。
- ・ 都心との間に位置する新町・古町地区では、城下町くまもとを印象付ける回遊性の高いまちづくりを目指した活動が行われています。



(2) 景観特性

- ・ 花岡山・万日山は本地域西側の重要な景観構成要素です。
- ・ 白川は、広がりある河川景観を有しています。
- ・ 坪井川沿いは、石塘やまとまった緑による多様な水辺景観が形成されています。
- ・ 現駅舎2階から阿蘇外輪山が見え、広がりある山並み景観が確保されています。
- ・ 北岡神社周辺では、北岡神社のご神木など豊かな境内林により緑景観が形成されています。
- ・ 駅至近では市街地再開発事業による大規模建築物が予定され、シンボリック景観が形成されます。



(3) 歴史・自然資源

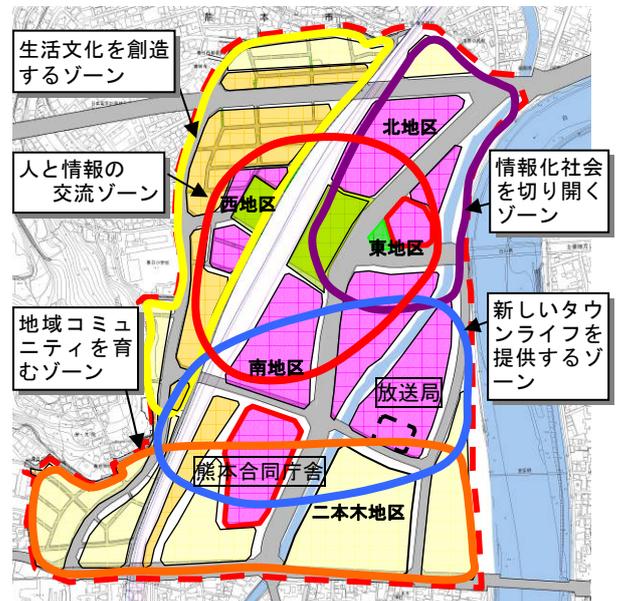
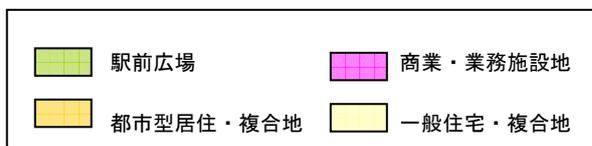
- ・ 西側の花岡山・万日山は、緑豊かな空間を形成していく上で、本地域の背景として重要な要素となります。
- ・ 北岡神社とご神木などの境内林は、道路整備後に視認性が一層高まり、地域のシンボルとなります。
- ・ 坪井川沿いには石塘や石塘堰といった歴史資源、石碑や地蔵等の生活文化資源、まとまりある緑などが存在します。
- ・ 坪井川の水を利用した水路が住宅地内に現存します。



本地域に関連する既往計画から、土地利用、動線、市街地整備計画に関連する項目を抽出して整理します。

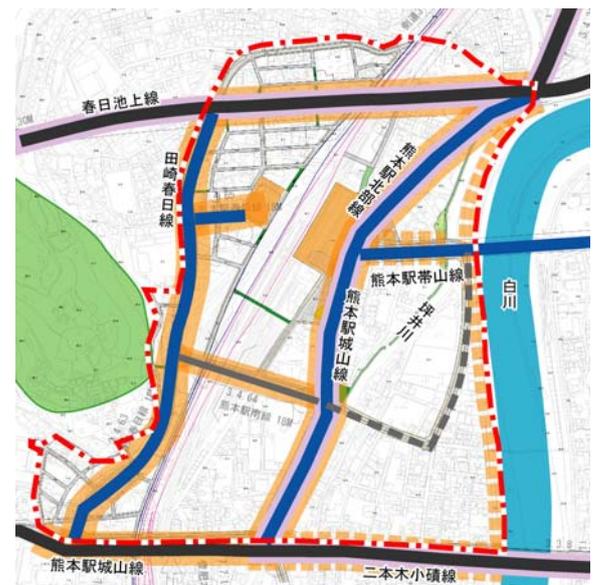
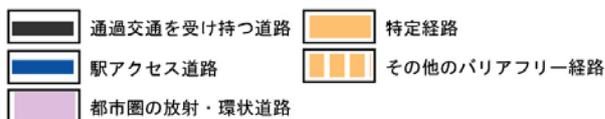
(1) 将来土地利用

- 駅前広場を中心に、にぎわいのある商業・業務地と拠点的施設を配置し、その後背地に複合地(住宅および商業・業務施設)、住宅地を配置することにより、出会いとふれ合いの副都心形成を目指します。
(H17.6：熊本駅周辺地域整備基本計画)



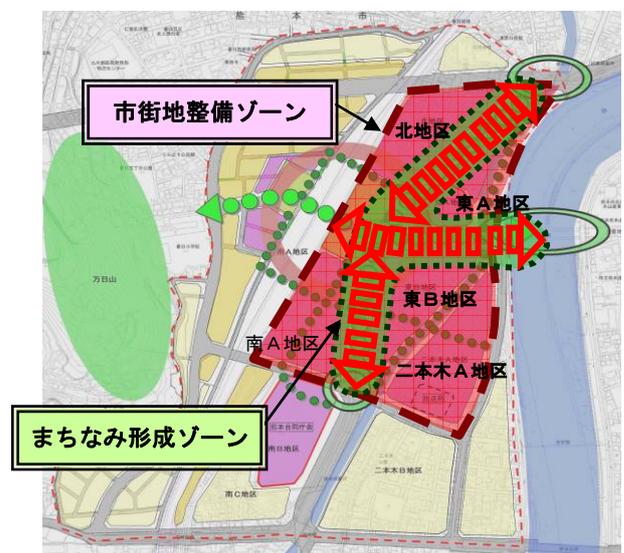
(2) 動線

- 東西方向の3路線(春日池上線・熊本駅城山線・二本木小積線)は、通過交通を受け持つ道路です。
- 熊本駅北部線及び熊本駅城山線は、駅アクセス道路としてだけでなく、熊本都市圏の内環状道路としても位置づけられています。
- 熊本市移動円滑化基本構想では熊本駅周辺地域全体を重点地区として、特定経路7路線、その他のバリアフリー経路4路線を位置づけています。
(H16.3：熊本市移動円滑化基本構想 他)



(3) 市街地整備計画

- 熊本の玄関口にふさわしい魅力あるまちづくりを進めるために、景観上重要な幹線道路沿道をまちなみ形成ゾーンと位置づけています。
- まちなみ形成ゾーンを含む駅に近接したエリアは「市街地整備ゾーン」と位置づけ、地域住民と行政とが一緒に市街地整備計画の策定に取り組むこととしています。
- その他のエリアは、区画整理の進捗状況や地元のまちづくりの機運の高まりに応じてまちづくりに取り組むこととしています。
(H17.6：熊本駅周辺地域整備基本計画)



目指す将来像を実現する都市空間のデザインについて、テーマを設定します。

将来像を実現するためには、まちを構成する多様な場所や施設が互いに協調しながら、誰もが使い勝手がよく、居心地よく暮らしやすい、地域としてのまとまりが感じられる都市空間をデザインすることが大切な要素と捉えて、次のようなテーマを設定します。

都市空間デザインのテーマ

**駅として使いやすく、
公園として居心地良く、
街として暮らしやすい
熊本に育まれた文化に根ざした都市空間**

古より熊本に育まれた文化「簡易・善良・素朴の精神」に根ざしたまちづくりを目指して、過度に華々しい開発を競うのではなく、風土や自然環境に配慮すると共に、個々の空間が互いに協調し、人や自然にやさしいまとまりを備える、環境の世紀にふさわしい新たな熊本・都市空間を創出します。

〈 大切にしたい駅周辺の都市環境 〉



地域のシンボルとなる熊本らしい緑



花岡山を望む広々とした空



都心部に繋がる自然豊かな空間

都市空間デザインのテーマに基づいた都市空間デザインの基本方針を示します。

① にぎわいの都市空間

○新たに基盤整備や建築物の更新等が行われる本地域において、新たな九州の拠点として、また県都熊本の玄関口にふさわしい良好な都市空間の形成を目指します。

- ・相互の施設や機能が連携し、まとまりの感じられる都市空間
- ・歴史、風土、環境資源を活かし、快適性を備えた都市空間
- ・環境と人、公共空間と民有空間、それぞれが協調する都市空間

② 環境豊かなうるおいの都市空間

○他の地域では見られないほど豊かな緑と環境空間を兼ね備えた、にぎわいとうるおいの都市空間の形成を目指します。

- ・森のように成長し、時とともに親しみを増す都市空間
- ・時の積み重ねがまちを育み、百年経ても新しさを感じる都市空間
- ・人と自然が共存し、相互にやさしい都市空間

③ すべての人が利用しやすい都市空間

○多くの人交流する本地域において、すべての人にわかりやすく、快適で、安全な、ユニバーサルデザインの都市空間の形成を目指します。

- ・使い勝手が良く、まち全体がわかりやすい、人にやさしい都市空間
- ・まち全体が駅として、心地良く活動できる都市空間
- ・「おもてなしの心」が感じられる都市空間

④ 利用者ニーズを取り込んだ、協働のまちづくり

○多様な利用者のニーズを、まちづくりの進捗にあわせて把握し反映させることによって、より良いまちをみんなが一緒につくることを目指します。

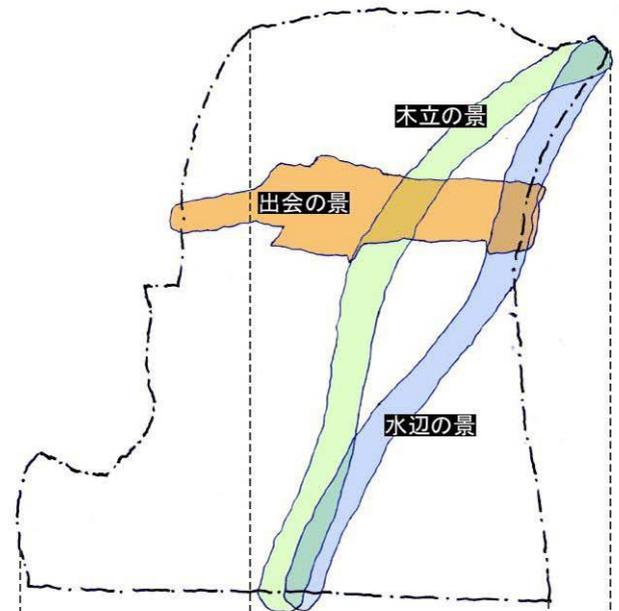
- ・市民、地域、行政が一体となってつくり、時と共に更新する持続可能な都市空間

(1) 都市空間の基本構成

まちづくりの目標達成のために、都市空間をデザイン展開する基本構成の考え方を示します。

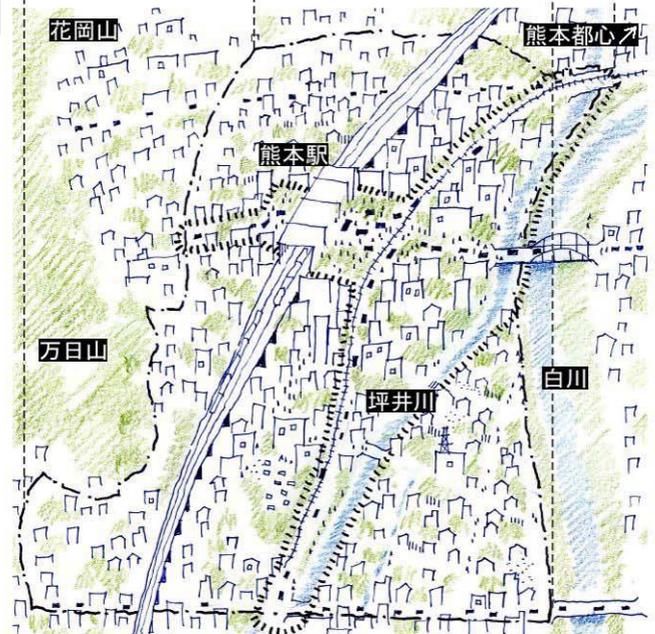
3つの景を中心に、 わかりやすい都市空間を構成する

- ・都市空間の骨格を、従来の“軸”ではなく、“ひと”の目線から捉える空間のまとまりを指し、建物や道路、水や緑など全ての空間要素により構成される「景」としてとらえ、本地域では、地勢や周辺との関係性から、それぞれ個性的な3つの「景」を位置づけます。
- ・そして、駅を中心とする「出会いの景」から「木立の景」「水辺の景」へ、さらに「生活空間」へと、地区全体ににじみ出すような都市空間を目指します。
- ・この「景」を骨格とすることにより、個性と調和、連続性が共存するわかりやすい都市空間を構成します。



豊かな水と緑に満ちた、 熊本らしい都市空間を構成する

- ・借景となる万日山や花岡山、白川や坪井川、街中の水路、そして既存の樹木や庭先の緑など、これまで地域に親しまれてきた水や緑を大切にしながら、新たに整備される水や緑と共に、うるおいに満ちた熊本らしい都市空間を目指します。
- ・特に、「緑」を地域の一体感を醸成する重要な要素と位置づけ、駅付近から周辺へ「にじみ出す」よう自然な連続性に配慮します。
- ・大きな樹木だけでなく足元の緑などにも配慮し、自然で安全な公園のような空間を目指します。



(2) 都市空間の全体像

熊本駅周辺地域の都市空間を構成する「特徴的な3つの骨格」と共に「ベースとなる生活の空間」の概要を全体像として示します。

こだち けい 木立の景

地域とつくる木立の中を
市電が走る空間

民有空間と公共空間が一体となった、緑の街並みの中を市電が走る、美しい空間を形成します。

であい けい 出会の景

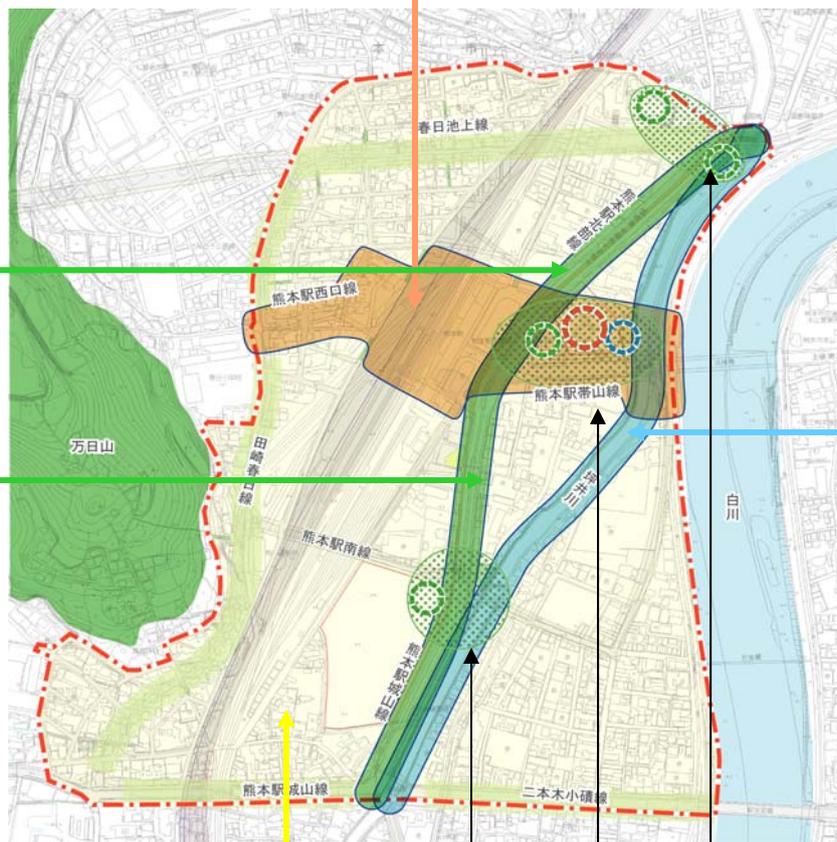
広場が結ぶ
緑と出会いと交流の空間

熊本の玄関口として、広域交通結節点の駅を中心に緑とにぎわいに包まれた快適でわかりやすい空間を形成します。

みずべ けい 水辺の景

水辺とまちが交差する
回遊空間

地域資源を活かしつつ、田崎橋～水辺の広場～祇園橋を結ぶ安全で変化に富んだ水際の回遊歩行空間を形成します。



生活空間

(3つの景以外の空間)

地域の生活に密着した基盤として、地域で育てる身近な生活空間を目指します。

けい
景が交わる大切な拠点